



市民・地域共同発電所と人権

～京都宇治・ウトロ平和祈念館の現場から～

京都大学大学院 地球環境学舎M1
ウトロ平和祈念館 運営展示部会

安愛美(あん・えみ)

本日本話したいこと

- ▶ ウトロという土地について
- ▶ ウトロおひさまプロジェクトについて
- ▶ なぜウトロ平和祈念館に太陽光発電所？
～人権・平和と気候変動の関係～
- ▶ 人権と気候変動を地域から考える



ウトロ地区とは

- ◆在日朝鮮人の集住地区
- ◆1940年～京都飛行場建設がきっかけ
背景：朝鮮への入植、植民地支配
- ◆朝鮮人が仕事を求めて集まる
⇒生活の場としての飯場

ウトロ平和祈念館HPよ



ウトロのあゆみと協働の歴史

- 1940 京都府の誘致により**京都飛行場**計画決定
- 1943 現在のウトロ地区に**飯場**（労働者の寄宿舍）が作られる
- 1945 **終戦**によって飛行場建設中断、約1300人の朝鮮人労働者は放置
- 1986 **水道問題**浮上
- 1988 **土地問題**浮上、日本人支援者と「第一回ウトロまちづくりの集い」開催
- 1989 「建物住居土地明け渡し」**訴訟開始**、「**ウトロを守る会**」結成
- 1993 **米ニューヨークタイムス紙**にウトロ問題の意見広告掲載
- 2000 最高裁控訴棄却、ウトロ住民**敗訴**確定
- 2005 韓国のNGO、KIN（地球村同胞青年連帯）ウトロ実態調査
- 2007 **韓国国会**ウトロ30億ウォン支援決定（当時3億8千万円）
- 2018 ウトロ**市営住宅**第1期完成、40世帯入居
- 2022 **ウトロ平和祈念館**開館



ウトロ平和祈念館の役割



◆学びの場

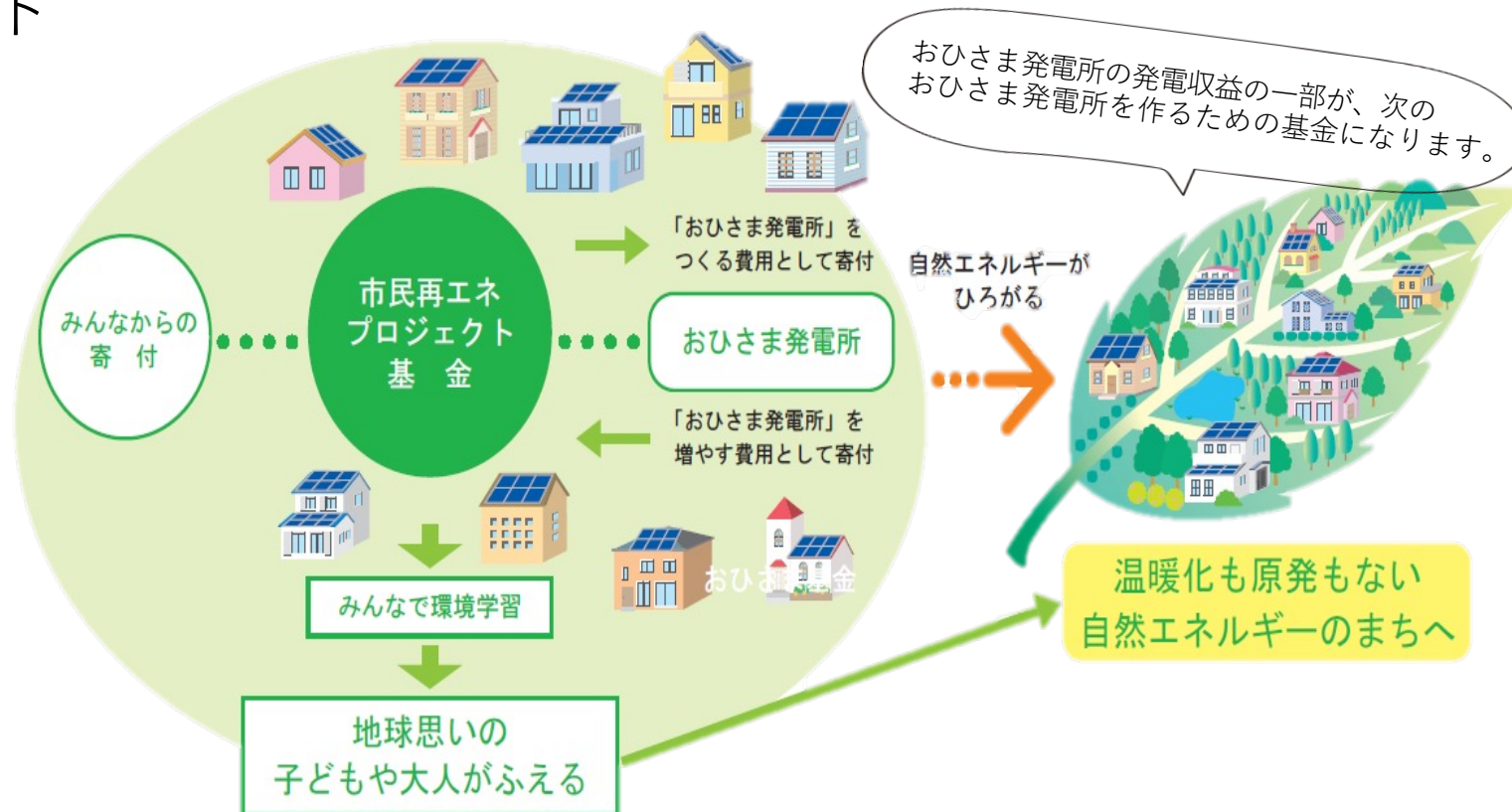
◆地域コミュニティの場

◆平和・人権を通して人々が交流する場



おひさま発電所計画～エネルギーも自分たちの手に

- ◆ 「市民共同発電所」としてのおひさま発電
⇒ 市民再エネプロジェクトin京都さんのご協力で
「ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクト」としてスタート



ウトロおひさま発電所ができるまで

2022年7月～事務局（きょうとグリーンファンド）に打診、打ち合わせ
進め方について、必要書類のサポート、資金計画、機材見積
各種認定、補助金申請 等)

9月 寄付呼びかけに関するチラシ作成・後援依頼等

10月 寄付呼びかけ開始

12月 スタッフ・ボランティア向け勉強会

1月 太陽光パネル設置、発電開始

4月 点灯式 兼 1周年記念イベント

トークセッション実施

5月 寄付終了

7月 プロジェクト報告書発行、収支報告

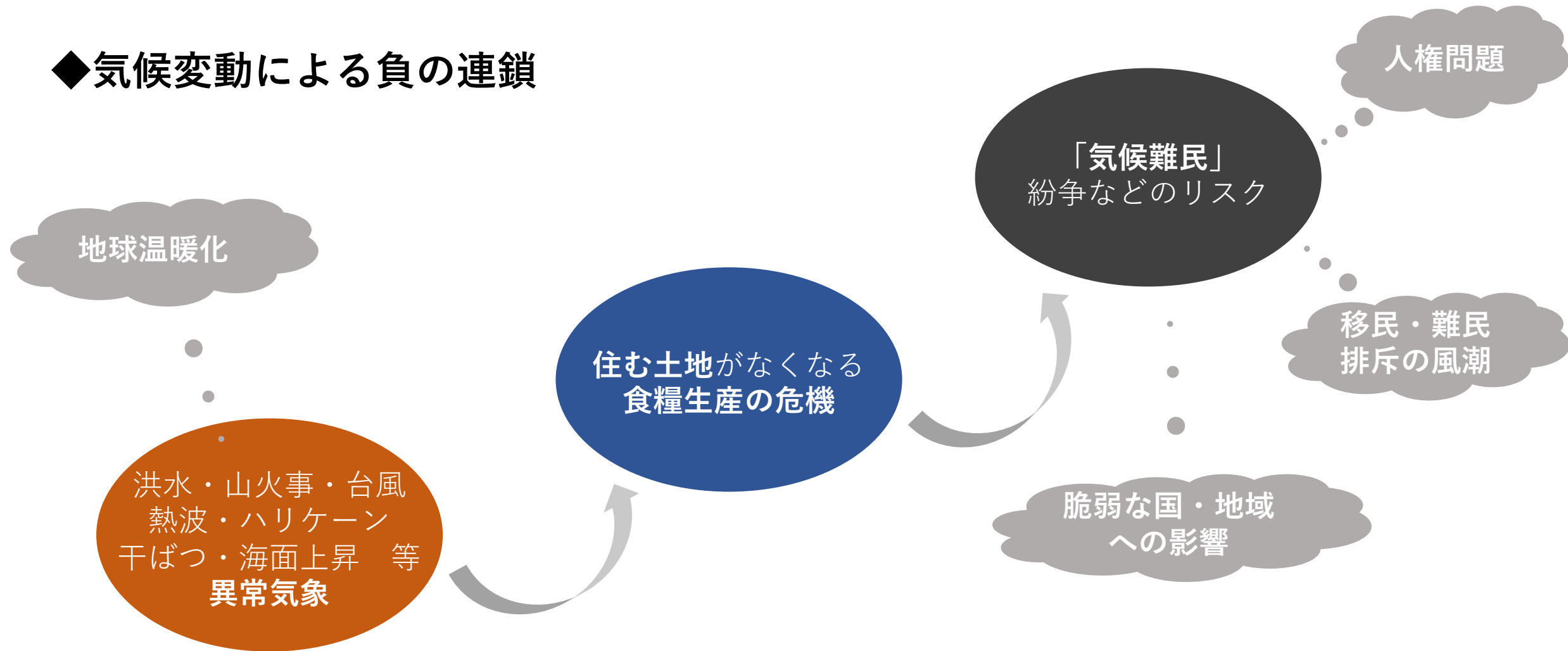


なぜウトロ平和祈念館におひさま発電所？



① 平和と気候変動は密接につながっている

◆ 気候変動による負の連鎖




① 平和と気候変動は密接につながっている

◆ 人権に焦点を当てるウトロ平和祈念館

- * 日本国内でも終わっていない差別
- * 世界的にも、移民排除・差別の風潮



気候変動による影響によって
ますます助長される可能性

 気候変動と人権を合わせて考える必要

ウトロでのおひさま発電が

その関係を考える一助になれば、、、



②地域としての再エネの重要性

◆エネルギーはどこから？

火力発電
LNG/石炭/石油

原子力発電

誰かへの押し付け

遠くの人々の
人権は…??

困難を乗り越えてきたウトロだからこそ

自分たちの**土地**で・**見える範囲**で・**誰も傷つけずに**

電気を作りたい！

地域の
小規模再エネ発電
+地域の自立

◆コミュニティの重要性

- ・ **周辺地域への還元** : 地域コミュニティとしての役割 + 災害時拠点
- ・ **コミュニティのレジリエンス** : 危機に対処する力として特に重要



ウトロおひさまプロジェクトを振り返って

- だれかがきっかけになることでプロジェクトに
- 平和を求めるコミュニティの存在が対話・プロジェクトのベースとなった
- 「人権⇒環境問題」という学びの視野を広げるきっかけに
- 学びを広げ、みんなを主体にする努力は続けていく必要はある

この度は貴重な機会を
ありがとうございました

